

YUSUKE KITAJIMA

世界でたった一枚の版画作品を作る



ブは一枚しかできない。北嶋の場合、木の板にモティーフの輪郭だけを彫り、版木のフラットな部分に様々な色を塗って転写する。彼の版画に見える黒い輪郭線は、絵具ではなく紙の色。それが北嶋の独特な制作方法だ。そして、筆致を活かした彩色はキャンパスに描いた絵画のようなタッチを生み出す。さらに版木を紙にプレスすることで、筆跡が柔らかくなる。そんな理由から、彼の版画にあたたかみを感じるのかもしれない。

木を使ったものづくりが好きで、将来は大工や建築家になると思っていた高校時代。北嶋勇佑は武蔵野美術大学建築学科に入学し、1年時に全学科共通で履修する絵画の授業がきっかけで、絵に興味を持つようになった。小学生の頃に木の板を彫って版画を作ったことを思い出し、家の押し入れから彫刻刀を取り出した。授業で買った油絵具を使って版画を作り、黒い紙で刷ったのが、北嶋にとって初めての版画作品。休みとなれば制作をしたり、コンクールに出品したりと夢中になった。基礎から版画を学びたいと思うようになった北嶋は、建築学科を卒業後、大学院に進み版画を専攻。自身の版画がどのような位置づけにあるかを考えながら銅版画、シルクスクリーンなど様々な技法を勉強する。北嶋が作るのはモノタイプの版画。繰り返し刷れば同じ作品が出来上がるというのが版画の大きな特徴であるが、モノタイ



《あひる》木版モノタイプ 紙 油絵具 / 194.0 x 130.3 cm / 2016



《ペンギン》
木版モノタイプ 紙 油絵具
45.0 x 45.0 cm / 2017